

【飯尾文書】

一一六二

先度者預御札、委細令拜見候。仍當國之儀、次郎下國候而、種々以曖無事相調候。可御心安候。兼又土田庄年貢之事蒙仰候。在所へ相尋候處、一向不存候由申候。其方ニ被驗置候物候者可下給候。以其上可申付候。此由從^(義元)屋形も被申候。聊不可有疎略候。次其方之義、可然様御取合奉^(永正十一年)憑候。猶期後音候條令省略候。恐々謹言。
十二月八日 秀 盛 在判

飯尾近江守殿

御返報

^(上書)
飯尾近江守殿

御返報

遊佐孫右衛門尉
秀 盛

【飯尾文書】

一一六三

就土田庄御年貢之儀被成下御奉書候。委細拜見仕候。當國不慮取亂之子細出來候。相調候者、定急度面向可被

申入候。内儀先申入候。可然様御意得肝用存候。此方儀委御使御存知候事候。恐々謹言。
十二月十八日 統 朝 在判

齋藤上野介殿
^(時孝)
^(長秀)
松田丹後守殿

御宿所

^(上書)
齋藤上野介殿
松田丹後守殿

隱岐豊前守
統 朝

參御宿所

十二月廿六日。能登守護島山義元、大吞北庄百姓に、鹿島郡七尾に出張したる際忠節を盡くしたるを賞す。

【溫故足徵】

一一六四

就今度七尾に御出張、忠節神妙之條、御年貢之拾分一永代御免處也。彌於、向後粉骨肝要之由、依仰執達如件。

永正十一年
十二月廿六日

^(隠岐豊前守)
統 朝 在判

大吞北庄 御百姓中

^(三宅伊賀守)
俊 長 在判

永正十二年

乙亥

紀元二一七五

閏二月八日。能登守護島山義元の被官温井孝宗、幕府奉行人飯尾貞運に、錯亂の未だ鎮靜せざることを報す。

【飯尾文書】

一一六五

先度者預尊札候。如仰當春御慶雖事舊候、猶以不可有^(義元)際限候。

一、當國之儀、種々雖無事之調法候、于今無一途候。
一、自土田庄之御年貢之事、則御狀之趣致披露候。猶以相調可申入候。聊無如在候條、可御心安候。併期後信之時候。恐々謹言。

^(永正十二年)
閏二月八日

孝 宗 在判

飯尾近江守殿

御返報

^(上書)
飯尾近江守殿

御返報

温井兵庫介
孝 宗

三月十六日。能登守護島山義元、鳳至郡興德寺に、三井中村の田地を寄進す。

【龍門寺文書】

一一六六

興德寺領之事、三井中村分内古坊正力谷夫錢共ニ、井中村館分等之事、爲菩提、永代寄進不可有相違狀如件。

永正十二年三月十六日

^(龍門)
義 元 在判

興德寺喜叟和尚

三月十六日。能登守護島山義元等の奉加に依り、越後能生白山社寶殿の造立成る。

【能生白山神社棟札】

一一六七

(表)

造立白山十一面大權現御寶殿一字御遷宮
于時永正十二乙亥三月十六日壬寅卯刻大願主作事密乘院快深在判大工彦左衛門尉宗繼小工江部次郎三郎